

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和7年度 第3回入間市社会教育委員会議
開 催 日 時	令和7年12月24日(水) 午前10時00分開会 午前11時50分閉会
開 催 場 所	入間市教育センター 会議室
議 長 氏 名	西村めぐみ
出席委員(者)氏名	佐藤清美 濱中幸子 梅 裕晶 双木茂芳 西村めぐみ 齋藤勝久 村野裕子 吉野 勝 田辺暁己 宮寫和子
欠席委員(者)氏名	野口正孝 伊藤浩二 小玉佳也 吉田澄枝 白木賢信
説明者の職氏名	奥村社会教育課主幹
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	(社会教育委員会議 すべて公開) 1 開 会 2 議長あいさつ 3 協議事項 (1) 生涯学習推進計画の評価・課題、次期計画に必要な視点・方策について (2) 計画づくりのためのアンケート結果について (生涯学習・公民館・博物館・図書館) 4 報告事項 (1) 各委員からの活動報告 (2) 教育部社会教育担当各課からの報告 5 その他 ・次回会議の日程について 6 閉 会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	0人
配 布 資 料	別紙のとおり
事務局職員職氏名	浅見教育部長、新屋教育部次長、大石社会教育課長、 大久保博物館長、平岡図書館長、 奥村社会教育課主幹、牧野社会教育課主幹 大久保社会教育指導員、浅見社会教育指導員

会議録(2)

議事の概要(経過)・決定事項

1 協議事項

- (1) 生涯学習推進計画の評価・課題、次期計画に必要な視点・方策について
- (2) 計画づくりのためのアンケート結果について
(生涯学習・公民館・博物館・図書館)

事務局 奥村主幹・大石課長より説明

2 報告事項

- (1) 各委員からの活動報告
- (2) 教育部社会教育担当課からの報告

①社会教育課

大石社会教育課長

(i) 報告事項

- ・第30回いるま生涯学習フェスティバル
- ・第25回入間市三曲連盟定期演奏会
- ・第26回入間市美術協会 小品展(絵画・彫刻)
- ・第40回入間市書道展 同時開催:入間市児童生徒書き初め展示会
- ・第40回入間市文化協会芸能発表会
- ・第42回入間市民謡連盟発表会

②博物館

大久保博物館長

(i) 報告事項

- ・第29回「むかしのくらしと道具展」
- ・日光さる軍団 猿まわし公演(指定管理者自主事業)
- ・文化財防火訓練

(ii) 配付資料

- ・ニュースアリット 124号

③図書館

平岡図書館長

(i) 報告事項

- ・開館40周年記念事業「みんなで、モザイクアート」
- ・ビブリオバトル

3 その他

- ・次回会議の日程について

第4回 令和8年3月11日(木) 午前10時から
入間市教育センター 会議室

会 議 録 (3)

発言者	発 言 内 容
西村議長	協議事項(1)生涯学習推進計画の評価・課題、次期計画に必要な視点・方策について、協議事項(2)計画づくりのためのアンケート結果について、事務局より説明を願う。
奥村主幹	(「市民意識アンケート結果の分析」に沿って説明)
大石課長	(「第5次入間市生涯学習推進計画(抜粋版)」、「生涯学習推進計画 次期計画整理用ワークシート」に沿って説明)
大石課長	以上のことを念頭に、本日は、推進計画の目指す大きな方向性について、また、現計画の認識や設定項目の過不足等、新しく取り組むべきテーマといったことについて、それぞれのお立場から意見をいただければと思う。
西村議長	何か意見、質問等はあるか。
吉野委員	前回のアンケートとの比較について、今回のアンケートでは、例えば、女性が4分の3であったり、40代の方が3分の1だったりと属性に偏りがあるようだが、前回も同じような属性だったのか。
奥村主幹	前は郵送で調査を行い、年代については、入間市の人口構成の割合をそのまま反映する形で住民基本台帳から無作為に抽出した。今回は、保護者にネット配信で回答いただいたこともあり、偏りが出たということはある。
吉野委員	比較対象としてよいという事務局の判断か。
大石課長	全体的な傾向では偏りが出てしまうので、今、年齢別に比べてみた場合どうかといったことを引き続き検討しているところである。
西村議長	保護者は学校から来たからと返信したのではないか。他にあるか。
田辺委員	別の資料、公民館のアンケートでは、クロス集計とある。調査対象の課題があるとしても、工夫すればかなり有効な結果になると思うが、今現在、どのような方法で集計作業をしているのか。
牧野主幹	公民館のアンケートのクロス集計だが、複数回答のものもあるが、例えば、年代と回答の割合であるとか、できる限り、回答者の属性と回答内容のクロスで集計をかけているところである。
大石課長	補足だが、今申し上げたような方法で生涯学習アンケートの分析を進めているところである。
齋藤委員	23、24の情報機器についてだが、推進計画で紙媒体から情報機器の方に振れているが、紙媒体が少なくなったから機器へという考え方か。もう一点は、まちの先生を増やしたいとのことだが、先生が足りなくて増やすのか、いろんなジャンルを増やすためなのか。なぜかという、藤沢公民館の公民館便りは紙媒体だが充実していて読む人も多い。紙媒体も捨てたものではないと感じる。
大石課長	アンケートの6ページにある生涯学習情報の入手方法を見ると、インターネットが増えているのと、広報と地区センターだよりを見ていらっしゃる方が多い。先ほど申し上げたように、分析しながら紙媒体を評価するのか、また、反面、地区センターの高齢者向けスマホ教室でやり方がわかることもある。どういった方策が市民の方に情報を届けやすいのか、検討していきたい。まちの先生については、青い冊子の資料64ページを見ていただくとまちの先生のリストがある。事務局として

発言者	発言内容
西村議長	<p>は、いろんなジャンルの方に教室を設けていただければと考える。登録される方は増やしたいと思うが、申込みが無くて教室を開催しなかったなどということもある。先生の登録数を増やしたいというのに併せて、いろんな教室に参加される方も増やしたいと考えているところである。</p>
西村議長	<p>市報や公民館便りは、自治会を通じて回覧していると思うが、今は自治会に参加されてない方もいる。高齢で班長ができないからと抜ける方もいる。逆に、自治会に入らなくても情報が届くというシステムも必要かと思う。参加率50パーセントは高いともいえるが。</p>
村野委員	<p>市民意識アンケートだが、回答方法がインターネット、ロゴフォームだと思うが、そもそもこれに回答できる人はインターネットにアクセスできる端末を使える人だという前提であっているか。</p>
大石課長	<p>紙での回答もある。</p>
村野委員	<p>その比率がわかるとよい。私は紙推奨でも、インターネット推奨でもないが、すべての人にとってよい方法というのが正確だと思う。市民目線で情報をとというのは変わらないとのことなので、もしインターネットでの回答の方がほとんどであれば、このアンケート結果からこうしようという、決定するための資料としては弱い気がする。それで、紙媒体の方がどれくらいか知れたらいいというのが一点。あと、細長い資料の方の一番上に今後の必要な視点として、こども真ん中の文字を入れていただいているのは素晴らしいと思うが、ICTの活用で、子どもはICTを利用するかしないかがすごく難しい。スマートフォンをいっぱい見られる子もいれば、全く見せない家庭もある。すべての子どもに平等に情報が行き渡るには、学校を通じて紙媒体っていうのが必要じゃないかここ数年感じている。ぜひ子どもにも届くような情報提供をという支援を示していただけたらと思う。</p>
西村議長	<p>アンケート結果と子どもたちへの情報提供についてももう少し配慮をと。</p>
村野委員	<p>ではなくて、文字としてここに書かれているといいなって。</p>
大石課長	<p>アンケート結果の資料に紙の方とインターネットの方の割合が書いてなく失礼した。クロス集計などを進めていく中で、もう一回その辺を見直して分析に活かしていきたい。二点目について、確かにおっしゃる通り、子どもにより環境が違うので、市が行っている学習情報の提供が伝わっていないに差が出ている状況が見て取れる。いただいたご意見と、また、どういった方法がいいか、学校関係の方の意見をいただきながら、子どもたちにどう伝えるか計画に入れ込んでいきたいと考える。</p>
宮嶌委員	<p>市民意識アンケートの10ページ20番文芸入間の認知度を見て驚いた。が、インターネットでの回答だったのでこの結果が出たのかと、あまり心配しなくてもいいかとも感じたが、結局投稿している人の年齢がすごく上がっていて、投稿したことがあるが1、2、知らないが6、2、9で寂しいが現実だなと思った。でも、紙とかでやるとこの数字が変わるかなと感じた。私がインターネットで回答してくれと言われたらたぶん回答しない。文章でくれば好きだから書く。お年寄りの中にはそういう人も多い気がする。あと、紙にするとお金がかかる。財政が苦しい中で時代がさかのぼりするようで、むしろ私たちがインターネットをやらないといけないん</p>

発言者	発言内容
西村議長	<p>じゃないかとも思う。</p> <p>確かに62パーセントの方が知らないとある。子どもの作品とかなないと、あまり手に取ることがない。子どもの作品を展示したりすると保護者も来てにぎやかになるが、趣味でおとなだけやっていると少ない人数になる気もする。けれども、すべての人が知らなくても、頑張ってくくださる方がいるのは、一つの生きがい、生涯学習の一つとも思うが、もうちょっと皆さんに知らせてもいいかなという気はする。</p>
梅委員	<p>私もそれぞれの年代に合わせた集計方法が大事になってくるかと思った。今は、乳幼児親子と小学生、中高生、それぞれの年代と子ども会全体と一緒に活動している。それぞれの年代の傾向を情報としてお知らせしたい。乳幼児の親子の方は、ホームページやSNSの活用率が非常に高い。その中で、どこの地域でどんなことをやっているのか具体的に見えると非常にうれしいですというお話をよく伺う。実際冊子を見せていただいて、これだけの量を情報にするのは大変だとは思いますが、これを見たときにどこの地区でやっているか、ぱっと見てわかる。もしホームページなら地区ごとに検索をかけられるとよい。地図があつてクリックすると情報が集約されていると検索しやすくなる。小学生については、学校が基本的な生活の場になっているので、目で見ただけで情報が伝えられるというのがキーになる。紙は必須で学校で配らせていただいている。未来会議という子どもたちが意見を出す会議の場をやっているが、国からの情報でマンション推進計画と耐震工事について子どもたちに聞いてくださいと言われた。何を言おうかと思ったときに、子どもたちがわかるように、大人が咀嚼して伝えることで、地震が起きたときどうしようかとか、やはり、レベルを少し子ども向けにして伝えることができれば、このアンケートでも反映できるものが作れるのではないか。最後、おとな向けに関しては、おっしゃられた通り、ホームページ、SNSだけでなく、公民館、図書館など、行かれたところに目で見てわかるようなものとして周知していくことも大事ではないか。情報をそれぞれの方が欲しいと思ったものに合わせて提供していくことができれば、アンケートもよりよくいろいろな世代とつなげていける。</p>
西村議長 佐藤委員	<p>アンケートと、それ以外、全体に関わることで、意見、質問はあるか。</p> <p>アンケートについては、対象者によって一番情報を得やすい、回答しやすいというのが違ってくる。一つだけの方法ではないのがいいと思う。アンケートの答えが40代が多く意外に思った。説明を聞いたら、それなら保護者、子育て世代の方に漏れなく伝わるんだなと感じた。夏に剣道連盟で、剣道の初心者教室の情報発信を一般の子どもたちに紙でやっていたのだが、今年それをやってみたら反応が全然違う。早い、正確、確実に学校に行く。すごい、これは活用しない手はないとう気がした。逆に、茶道連盟では、アンケートがあります、公民館どうですか、言いたいことがある先生方は多い。仲間内では言ってることを、アンケートに反映すればいいと思っても、チラシを見ても、それを読み込むことができない。そういう状況で、伝達方法をメールにしたいと提案しても、半数以上がメールすらできない。費用がかかっても郵送、それは仕方ないが、生涯学習のご高齢の方も生き生きと生きがいを持ってやって欲しいなと考えると、そういった方にも情報を発信していただき、紙だったり、口伝だったり、何か方法を考えて、例えば、サークルごとに伝えても</p>

発言者	発言内容
西村議長	<p>よい。もう一点、アンケートで4ページ、子どもに必要なと思う生涯にわたって役立つ力、学び、体験で、社会道徳が多いということになるほどと思った。今の保護者はここを期待されている方が多いと実感している。私は剣道もしているのですが、お子さんに剣道を習わせたいという保護者の方、圧倒的に多いのが、剣道を通じて礼儀や作法、それから社会道徳をといったものを身につけさせたい、全国大会で優勝する、強くなりたい子はほぼいません。今、ニーズがこれだけあるので、社会教育でもここに力を入れて何か考えてもいいのかなと思った。</p>
大石課長	<p>剣道のリーパー、学校の情報の話ですね、確かに确实で、みなさん、とてもよく確認されている。どこまで使うかは難しいが、いいシステムである。高齢化の先生方の意見が中々反映されない。小さい字であると億劫になってしまわれるのもあるかもしれない。もっと丁寧に、サークルごとに伺うとかできたらよかったかとも思う。あと学校教育以外に社会教育に必要なことでしたね。</p>
西村議長	<p>今回、こうした形でアンケート行い、たくさんの意見をいただいた。それを踏まえて、生涯学習情報の提供の在り方というのを、アンケートの内容と情報の伝え方も振り返って、今後の計画にどのように反映していくか、情報が欲しいという方に合わせた提供の方法、また、どう伝えていくかを検討して、計画に示して、工夫していきたい。それと、子どもに期待することで、社会道徳が期待されていることが把握できた中で、今回は、議題として生涯学習の計画について、どういう項目でといったことについての意見交換と併せて、生涯学習の計画に載せていくのがいいのか、前回の公民館の計画にも反映させることもできるかと思うので、いただいたご意見を生涯学習としてどういう視点で取り組むのが求められているのか、また他の社会教育に関する計画でどう位置付けていくのがよいか、引き続き検討して参りたい。</p>
齋藤委員	<p>費用対効果ばかりでなく、社会教育とか目に見えるものではないので、満足感とか心の問題もある。そこをお金や物で測るっていうだけでは、計画しにくいというものもあると思うんですけど、それを考えて計画に取り入れていただけたらと思う。</p>
大石課長	<p>藤沢でも高齢者が情報弱者みたいな感じで、スマホ教室を始めた。それを見ると、ハイブリッド的な情報の伝達がよいと思う。日本で開発されたQRコードだが、開くとすぐ情報が出てくる。一般的なのだと、次、次、次と行かなくちゃいけない。それが高齢者では中々できない。その過程として、紙媒体と情報機器をうまく合致させて情報を流すというのはすごくいいのかなと思う。こういうことを知りたいと言ったら、QRコードからすぐ出てくる、そういうやり方がある。というのは、スマホ教室でまるっきりできない人が来る。電話と写真を撮る、メールを見るとかいう人が来るが、1時間半とかやるとQRコードを開いて自分で操作できるようになる。最後にQRコードに感想を入れてくれというと、ほとんどの人が感想を入れてくれる。それを見ると両方使ったやり方はすごくよいと思う。藤沢地区では、講演会だとかやるときに、申し込み方法をQRコード、電話、窓口でデータを取ってみる中で、どうしたらいいか考えていきたい。</p>
大石課長	<p>今の中で、ハイブリッド型とか、どちらかではなく、組み合わせながら、よりよい仕組みというのを考えられたらと思う。あと、村野委員からいただいた、子ども</p>

発言者	発言内容
西村議長	<p>に対する情報の提供方法が必要だとする視点、発信の在り方がどちらかに偏るのではなく、よりよい方法を考えていくといった意見をいただき、この表、計画に落とし込んでいきたい。</p> <p>今は過渡期で、乗った人もいれば、若いときに接してこなかった方は残っていらっしやるので、今はまだそういう配慮も必要と思う。</p>
村野委員	<p>子どものことも盛り込んでいただけるってすごくありがたいし、状況に応じた情報の発信の仕方も素晴らしいと思うが、このこども真ん中という視点を持った時に、それは子どもの利益であって、例えば、親にしたら社会道徳を目指していると思うんですけど、習いに行く子どもたちは社会道徳を身につけるために来ましたとは絶対言わないと思う。子どもはもっと違った視点でやりたがっていたりするので、こども真ん中は子どもの視点であると忘れずにいろいろな計画に盛り込んでいただければと思う。親の視点も大事だがそう願う。2つ質問したい。この細長い資料のまなぶ、学びで人づくりの一番下、安心安全な学習環境の提供は見直しになっていたが、これは項目自体が削られるということか。もう1点は、公民館アンケートの一番最後の自由意見を読んだが、この意見をどれくらい汲み取るのかと心配になるくらい多い。それと、何も変わらずに生涯学習推進計画を推進していくと、分館が無くなることは大きな問題であると思う。たくさん意見がある中でどのようにお考えか質問したい。</p>
大石課長	<p>1点目の安心安全な学習環境の提供については、方針の変更として考えていて、項目を入れ替えたいと考えている。どういう言葉で固めるかは検討中だが、安心安全な学習環境の提供というのは、コロナ禍の時に集まる機会がなくなったのを、生涯学習でどう担保するか。そうした場合に、当時流行り始めたりリモートワークなどの考えをサークルに伝えたりしながらサークル活動の継続を考えた。今後は、学習機会の充実という大きな枠で考えたときに、右側にある一生に渡って学習できる機会を広めていくことを念頭に、様々な事業に取り組んでいくことが必要という方向に変えていきたい。その中で新しくスキルを身につける、もしくは最近の状況、新しい考えにあった教育を進める機会として、市がどんなふうに市民の方に提供できるか考えて計画に落とし込んでいきたいので、項目を無くすというより中身を入れ替えたいと考える。それから、公民館アンケートにたくさんの意見をいただき、全部が全部反映できるものではないと考える。アンケートについては、公民館をどう運営していくか、市の基本的な考え方をまとめるための公民館基本計画であり、個々の事業というより、運営していく中でこういう考えに沿っていくことが大事であるというものを、意見から汲み取れるよう分析していく。併せて、分館が無くなるという大きな方針の中で、皆さんの活動のやり方や場所をどう担保していくかは、関係課を含め、活動の形を少しずつ分散するなど、引き続き担当課と検討していくものとする。</p>
西村議長 双木委員	<p>そろそろ時間でもあるが、濱中委員何かあるか。双木委員何かあるか。</p> <p>県家庭アドバイザーを任命されていて、入間市では1回もやった経験がない。各市町村では、アドバイザーが一生懸命やっていて、年4回くらい、本部と地区の会議があり、この辺では坂戸地区が頑張っていると聞いている。40歳代の方は、</p>

発言者	発言内容
	<p>自分が小学校か何か時の親から受ける道徳知らないんじゃないか。我々が昔から言われている親は大黒柱だ、給料をもらってくるという時代。途中からカードになっていつでも給料下ろせる状態。お父さんがこういうことをやっているんだよということ自体を教えていないのではないか。だから、僕らが言っていたのは、母親教育しようよ、という中で、一度もやってない。ただ、父親は男塾だとか、料理学校とかだんだん集まるようになってきた。しかし、40、50の女性たちがどういうことをすればいいか自体を知らない。鬼ごっこしようと言っても動けない。ですから、年齢に合わせた道徳も必要じゃないか。子どもたちと話すのに、朝起きたら何て言うの、黙って座る、おはようくらい言おうよ。その家庭はまず少ない。行ってきますって声をかけることなんてない。それと鍵っ子なのか両親が出ちゃってるのか、学校が8時半までに行けばいいんだが、8時にお母さん方が子ども連れて行って仕事行くから30分間どうするんだという話を言っている。そんなことで、お母さん方も道徳をそう少し知ってほしい。道徳が無くなったときがある、学校教育の中で。だから一生面名やっているんだけど、今現在寂しいなと思っている。人におはようございますって声をかけるんだけど返事がない。どこ行っても、おはようとか、こんにちはとか言っているが、返してくるのが少ない。普段の生活で考えてほしい。それを子どもとやってみようというのをどんどん宣伝して、おいでよとやってるが中々入ってこれに人が多い。</p>
<p>西村議長 佐藤委員</p>	<p>社会教育で道徳だけでなく、家庭教育も大事というお話かと思う。 先ほどのご意見のように、お子さんが自分で道徳身につけたいとか、礼儀を身につけたいとか、剣道を始める子には確かに意見はない。やらせたい保護者の根底にはそういう要望が多いが、そこをうまく、かつこいいから、楽しそうだからっていうふうにお子さん目線で、そこに親が期待しているものはわかってないかもしれないが、社会全体の道徳というか、身につけてくださいじゃなくて、剣道なら礼で始まり礼で終わる、感謝の気持ちは言わなくても伝わる、そこを保護者は期待している。いろんな子がいる中で、両方の期待をうまくできるような社会教育であればいいかなと思う。</p>
<p>大石課長</p>	<p>本日、アンケートとこのシートについて意見交換をしていただいた中で、表についての内容の確認であったり、新しい視点としてこども真ん中社会のために必要なこととか、情報の伝え方の過渡期であること等のご意見をいただいたが、先にお話しさせていただいたように、生涯学習を進めていく中で、現行で考えている、誰もがいつでもどこでも学べるという方向であったり、まなぶというくり、つなぐというくり、生かすというくりで、かつ施策を入れていくという形は、同じ認識でいただけたとの確認でよろしいか。その中で、いただいた意見を踏まえて、方針変更とか、新しい視点として入れるものなど、整理をして計画の骨子を作って改めて提出させていただければと思う。</p>
<p>西村議長 大石課長 牧野主幹</p>	<p>協議事項(2)計画づくりのためのアンケート結果についてはどうか。 これについては簡単に報告させていただく。 公民館アンケートについて、8月に出にsフォームを中心に入間市地区センター(公民館)アンケートというタイトルで実施した。先ほど来ご意見のあったように</p>

発言者	発言内容
<p>西村議長 大久保館長</p>	<p>インターネット等に不慣れな方が回答できなくなることを避けるために、各公民館の窓口で紙のアンケートを準備し、職員も手伝いながらご協力いただいた。3ページまでが、回答者の属性や公民館の利用状況である。4ページからは、現行計画の評価、課題抽出、次期計画への反映を目的として、現行計画の基本理念や施策に沿った設問とした。7ページからは、生涯学習推進計画の根幹であるまなぶ、つなぐ、生かすについての考え方の設問である。簡単に結果について報告する。クロス集計を含めた分析を進めているところであり、今日は単純集計の結果から事務局と公民館職員で分析した内容を説明する。回答数は541件、男女比は女性77パーセント、男性21パーセント、年齢層は、60代以上が80パーセントを超えるという結果である。公民館を利用したことがある方98パーセントであり、クロス集計等で反映させないと、偏った結果になるのは懸念している。特徴的な回答は、3ページQ2-6利用した成果、6ページQ3-②③では、年齢層が8割以上が60歳以上という特性だが、子どもや子育てに関する期待を寄せる回答結果となった。9ページからの自由意見においても、同様に子育て、子どもに関する期待を寄せる回答が多くみられた。地域学校協働活動、子どもが中心となった地域づくりというところが、市民ニーズや、あってほしいという姿に合致している計画だったと捉えている。一方で、4ページからの公民館に対する満足度については、現行の計画の施策の方向性や取組に関しての市民の方の率直な意見、評価が垣間見えたものと捉える。今回否定的な意見が15パーセントを超えた場合は簡単に理由づけしている。例えば、4ページの中断、専門性があり信頼できる職員、5ページ上段、成果の活用支援、下段の地域づくり、地域連携については、現行計画上の重要な方針であって、必ず実施している取組や施策であったとしても、市民に周知されていない以上は、周知不足など、肯定的な意見ではないと認識し、真摯に受け止めて、次の計画では、評価や進捗管理をする指標の設定、併せて反映しながら、運営に役立てていきたい。また、令和5年度地区センター化以降、公民館自体がその存在意義、地区センターと公民館の関りを地域がわかりづらいといった回答も多く寄せられた。この点についても次期計画の中では、丁寧な説明が必要なものと捉えている。9ページからの自由意見の中には、ソフト面である公民館運営、または、社会教育推進の視点とは異なる回答も多くみられるが、今回の資料は、原文そのまますべて掲載している。</p> <p>次に博物館から願う。</p> <p>博物館のアンケートについても、第3期博物館基本計画の策定に向けた基礎的な資料として取らせていただいた。8月下旬から9月下旬までおよそ1か月、方法は管内でのアンケート配布あるいは市内各所への配布、ホームページ、ダイレクトメール、LINEなどを活用した。回答は512件、内ネット回答460件紙52件だった。合計23問で、1から4問が属性、5から25問までが博物館がやっている事業についての認知度、そういったものを主に測る内容です。博物館につきましては、市外からの方も多いため、そういった方からも意見をもらえるよう考え実施した。問いの2を見ると、およそ7割の方が市内、3割が市外の方である。入間市民にとってのどのような博物館を求めているかは、まずは地域の歴史をつなぐ生涯学習の場、いろんなイベントが開催されている、美術展や書道展といった市民</p>

発言者	発言内容
西村議長 平岡館長	<p>の作品を発表する場といった認識が読み取れる。それとともに、特定の分野に特化せず幅広い世代が気軽に楽しめる企画展やエンターテインメント性の高いイベントといったニーズもある。反対に、市外の方から見た博物館は、お茶の博物館という認識が高く、お茶に関する展示の見学や調査研究、お茶大学、お茶関連の体験事業の利用が多い。このあたり一円からお茶好きの方がリピーターとして多く利用されている。なお、市内外を問わず、交通の便が悪いというのが読み取れる。これら进行分析して、今後の第3期博物館基本計画に反映させていきたい。</p> <p>最後、図書館から願う。</p>
西村議長 田辺委員	<p>図書館では、8月中旬から9月下旬、1か月アンケートを実施した。回答総数は1200である。回答方法は、ロゴフォームを中心に回答いただき、館内にアンケート用紙を設置して紙によるアンケートも受け付けた。回答の割合は、一番多かったのが50代、次に60代、70代と高齢の方の回答が多かった。本日実配布したものは年代ごとに集計したもので、まだ分析中だが分かっているところを記載した。図書館の資料の量の充実と資料の質の充実は全世代で共通の要望である。今後不足している分野の蔵書を強化する必要がある。また、30代から50代の子育て世代は子ども向けサービスとして科学遊びや工作教室、特に30代では乳幼児児童を対象にしたサービスの充実を望む声が一番多く、本の貸し出しという機能を超えた学びの機会の提供と子育て支援等の図書館運営が求められている。また、30代、40代を中心に飲食が可能なくつろげるスペースの充実を求める声が多く、子どもを連れて気兼ねなく利用できるような飲食をしながら読書や作業ができる交流スペースが求められている。</p> <p>何か意見はあるか。</p>
大久保館長	<p>博物館を利用させていただいたので、そのときのメモを読み上げる。先月ある団体で利用した。入間狭山飯能所沢日高5市ダイヤプランで23名。入間市で誇れる施設はアリット、まずは産業お茶ということで見学した。青丘庵での茶室体験、レストラン一煎での昼食。学園祭。写真体験。参加者も喜ばれた。アンケートによると、茶室の利用が少ない、利用率を上げる施策、宣伝が必要ではないか。来館手段は、自家用車が主で、西武バスが博物館正門まで行かない、ぜひ電車バスを使っていける博物館であって欲しい。あと、各施設はバリアフリーだが、博物館、レストラン、青丘庵を結ぶ動線のバリアフリーがちょっと利用しづらかった。</p>
西村議長	<p>博物館ご利用ありがとうございました。茶室の利用については課題と思う。今、茶事みの利用に制限している。いろいろな活用もあるかと、今後検討したい。バス停については、西武バスさんの都合もあるので、今後様々な交通手段が検討できないか、要望も含め、改善するよう頑張りたい。バリアフリーについては、自然の段丘崖を利用した地形が売りでもある。ただスロープなどの誘導が曖昧なところもあるので案内看板を設置するなどうまく誘導できるようにしたい。</p>
大石課長	<p>他にあるか。なければ、協議事項を終わりにする。</p> <p>続いて、次第4の報告事項に移る。各委員からの活動報告について、報告する方は挙手を願う。</p> <p>先に変えられた梅委員から、預かった冊子である。扇町屋地区センターとの共催</p>

発言者	発言内容
齋藤委員	<p>事業で、子どもさんを対象にしたイベントとのことである。</p> <p>ふじさわ未来ネットでは、3回目の実践報告会を2月14日に開催する。先ほど議論した、まなぶ、生かすといった考え方に沿って活動してきた。時間があつたらぜひ参加いただきたい。ただ場所が狭くて50人くらいしか入れないので早い方がよろしいかと思う。</p>
西村議長	<p>他にあるか。</p>
吉野委員	<p>社会教育課の事業だが、3月1日芸能発表会があるが、児童センターも使っていて、8日も三曲連盟さんと、歌謡連盟さんとお囃子の方々が子ども向けのワークショップを行う。いろいろな団体にそのように使っていただければと思う。</p>
西村議長	<p>他にあるか。では次に教育部社会教育担当各課から報告を願う。</p>
大石課長	<p>第30回いるま生涯学習フェスティバルを12月14日に開催した。今年初めて市民活動センターで行った。</p>
	<p>第25回入間市美術協会小品展を12月22日まで開催中である。第39回入間市書道展、第24回入間市三曲連盟定期演奏会、第39回入間市文化協会芸能発表会もそれぞれ特徴があり、書道展では小中学校の書初め作品も展示されている。ぜひ、見に来ていただきたい。</p>
	<p>第28回むかしのくらしと道具展を1月7日から2月16日まで実施する。小学校3年生社会科の授業に対応したもので、市内小学校全校の他、瑞穂町の小学校2校、青梅市の小学校1校も来館予定である。指定管理者自主事業として、1月26日に日光さる軍団の猿まわし公演を実施する。文化財防火訓練を、1月26日に西久保観音堂を会場にして、初期消火講習会、初期消火訓練、消防団の放水などを行う。ご覧いただきたい。また、配布資料ニュースアリット118号に催し物の案内もあるのでお読みいただきたい。</p>
	<p>12月に子ども向けの「冬のお楽しみ会」を本館、各分館において開催する。毎週行っているお話会の規模を拡大して行うものである。また、配布資料として図書館だより令和7年10月号をお配りしたのでご一読願う。</p>
	<p>何か質問はあるか。なければ、これをもって報告事項を終了する。</p>
	<p>以上で、議長の任を解かせていただく。ご協力に感謝する。</p>
	<p style="text-align: right;">以下、余白</p>

発言者	発言内容
	<p>議事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p> <p>令和 8 年 3 月 9 日</p> <p>議長 の 署名 西 村 めぐみ</p>